

令和5年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：27010

学校名：発寒南小学校

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果			分析		
体力・運動能力 ＜男子＞	○前回の記録と同程度もしくは上回った種目 ◎上体起こし、反復横跳び、立ち幅跳び ソフトボール投げ ○長座体前屈、20mシャトルラン、	○前回の記録より下回った種目 握力（全国平均を上回っている） 50m走（全国平均を下回っている）	学校での朝なわとびや体育館遊びの啓発が一定の成果につながり、男女共通して、前回の記録よりも上回っている種目が多かった。しかし、50m走や20mシャトルランは、男女ともに未だ全国平均を下回っている状況である。令和5年度からは、建設中だったグラウンドが使用できるため、持久力や走力が向上する取組を工夫していく。		
体力・運動能力 ＜女子＞	○前回の記録と同程度もしくは上回った種目 ◎上体起こし、反復横跳び、立ち幅跳び ソフトボール投げ、20mシャトルラン ○長座体前屈、50m走	○前回の記録より下回った種目 握力（全国平均を上回っている）			
運動・スポーツへの意識、運動習慣	①「運動やスポーツをすることが好き」と答えた子どもの割合 ②「体育の授業は楽しい」と答えた子どもの割合 ③朝食を毎日必ず食べる ④平日2時間以上テレビやゲーム、スマートフォン等を見る	① R3男 55.6% < R4男子 76.2%、 R3女 60.6% < R4女子 75.0% ② R3男 74.1% < R4男 81.0%、 R3女 66.7% ≒ R4女 67.5.8% ③ R3男 81.5% < R4男 95.2%、 R3女子 81.8% > R4女 75.0% ④ R3男 74.0% > R4男 57.1%、 R3女子 51.5% < R4女 70.0%	男女ともに、運動や体育の学習に対して、肯定的に捉える児童が多い。女子において、「朝食を毎日食べる」と答えた児童の割合が昨年度よりも減り、「ゲームやテレビ等を平日2時間以上見る」と答えた児童が増えた。		
三つの取組		①体育・保健体育等の授業の充実	②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組	③健康に関する指導の充実	
具体的な取組	OICT（一人一台端末等）を活用した学習活動の充実 ○保健体育での「課題探究的な学習」の推進 ○体育の授業での運動量の見直し ICTを活用した「課題探究的な保健体育の学習」 ・「運動のポイントを分かりやすく教えてもらえたら体育の授業がより楽しくなると思う」と答えた児童の割合が全国平均と比べて多かった。ICTを活用し、手本の運動や自分の運動を視覚的に捉え、解決に向かうことができるような授業を構築していく。 ・3年余り、グラウンドが使用できない中で保健体育の授業を行ってきた。令和5年度からは、新設のグラウンドを使い、体育の学習での運動量をしっかりと確保できるようにしていく。		○朝なわとびの取組の継続 ○スポーツウィークの実施 ○体を動かしたくなる場づくり 朝や休み時間に仲間と体を動かすことができる機会を ・朝の活動で行っているなわとびを継続するとともに、新しい縄跳びカードを配布し、目標をもって縄跳びができるようにする。 ・令和4年度、番号にボールを投げるターゲットボード、投げると音が鳴る道具、サッカーゴール等を購入した。令和5年度もスポーツウィークを設定したり、休み時間にグラウンドや体育館、特別教室等に楽しく運動できる環境を整えたりすることで、誰もが運動に親しむことができる機会をつくっていく。		○保健体育以外の学習と関連付けた健康教育 ○「食に関する指導」の充実 ○「命を大切に作る指導」と関連を図った指導の充実 各教科等の内容と関連付けた健康教育の推進 ・一人一台端末を使用する際の適切な姿勢や、端末やテレビ、スマートフォンなどのスクリーンを長時間見ることによる健康への影響を指導していく。 ・栄養教諭と連携を図り、食に関する指導を日常的に行う。 ・学校ホームページやおたよりを活用し、学校と家庭とで子どもたちに健康について考えることができるよう促していく。
	検証の方法		○年2回行われる学校独自の児童・保護者アンケートの活用 ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査の活用 ○体力テストの3項目（50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ）を全学年で実施・記録		

